

# 中国・四国地域の麦をめぐる現状



令和6年6月  
中国四国農政局



# 1 作付面積及び収穫量（令和5年産）

（単位：ha、kg/10a、トン）

	4麦計		小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作付面積	収穫量	作付面積	単収	収穫量	作付面積	単収	収穫量	作付面積	単収	収穫量	作付面積	単収	収穫量
鳥取	x	x	86	329	283	94	317	298	x	x	x	3	218	7
島根	731	2,430	168	198	333	529	377	1,990	12	179	21	22	373	82
岡山	3,560	13,800	1,010	416	4,200	2,310	381	8,800	2	202	4	235	331	778
広島	400	943	230	244	561	31	193	60	84	255	214	55	196	108
山口	2,120	6,690	1,640	338	5,540	225	293	659	-	-	-	260	187	486
中国	6,990	24,500	3,130	348	10,900	3,190	370	11,800	x	242	x	575	254	1,460
徳島	x	x	77	342	263	39	200	78	x	x	x	15	187	28
香川	3,410	11,700	2,630	354	9,310	21	478	100	-	-	-	761	302	2,300
愛媛	1,880	6,470	405	464	1,880	-	-	-	-	-	-	1,470	312	4,590
高知	12	33	4	145	6	5	457	23	-	-	-	3	135	4
四国	5,430	18,600	3,110	370	11,500	65	309	201	x	x	x	2,250	308	6,920
中国・四国	12,400	43,000	6,240	359	22,400	3,260	368	12,000	102	240	245	2,830	296	8,380
全国計	295,700	1,326,000	231,700	472	1,094,000	38,900	389	151,300	19,600	329	64,400	5,520	301	16,600

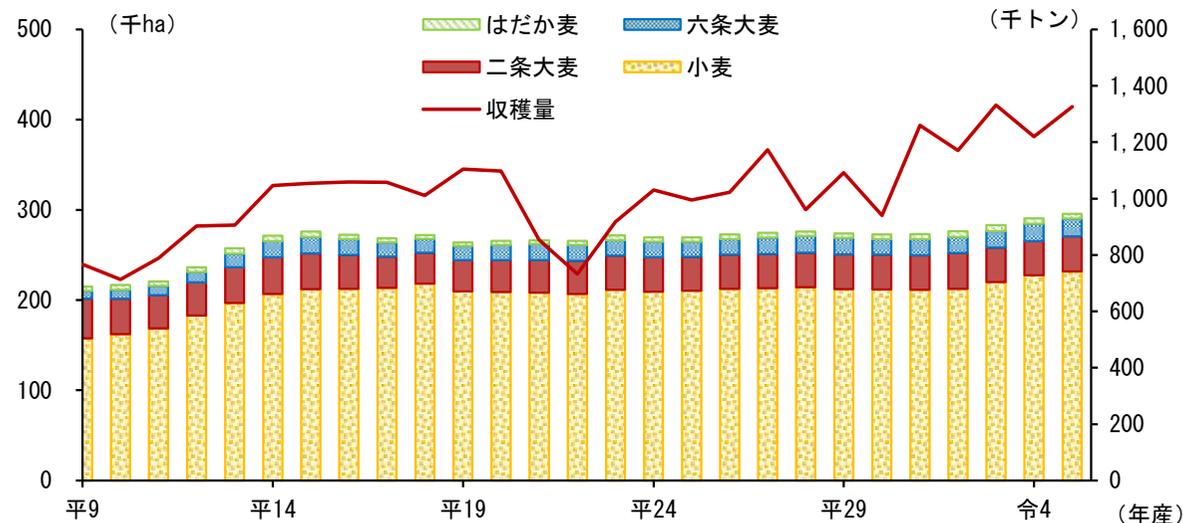
資料：農林水産省統計部「作物統計」（令和5年産）（2024年3月29日公表）

※ x：非公表、-：データなし  
 ※統計数値については、ラウンドの関係により合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

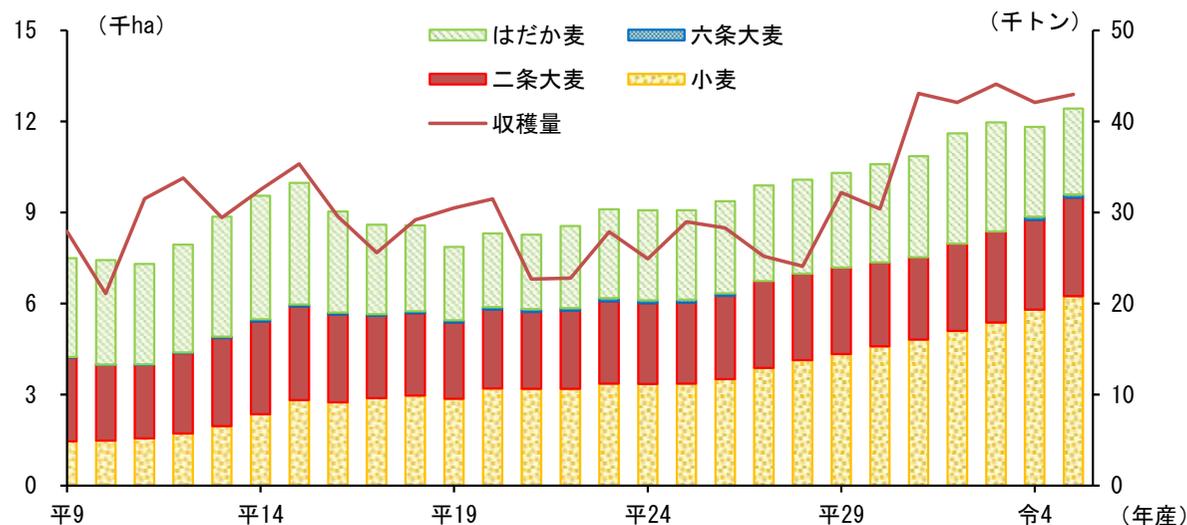
## 2 作付面積及び収穫量の推移

- 全国の4麦の作付面積は、近年ほぼ横ばいで推移。
- 中国・四国地域の4麦の作付面積は、近年増加傾向。
- 収穫量は、天候の影響を受けるなどにより年産によってかなり変動しているが近年豊作基調。

### 4麦の作付面積及び収穫量の推移（全国）



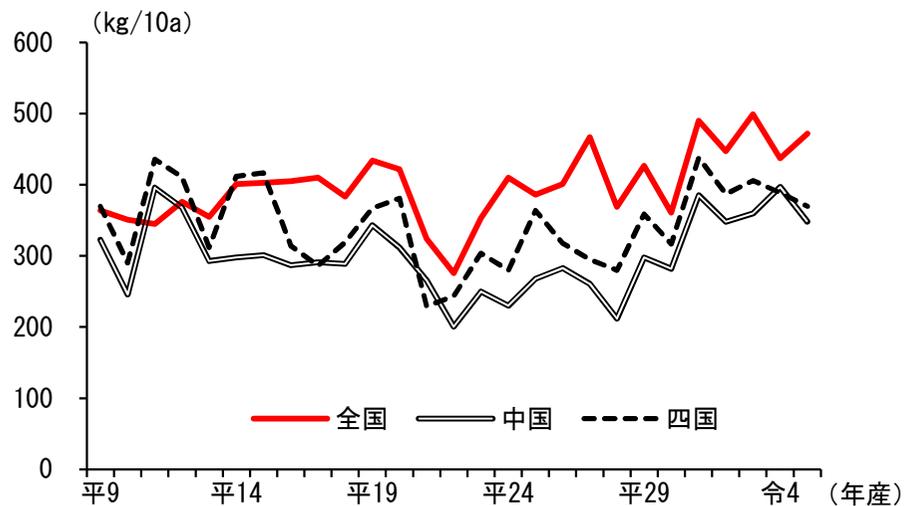
### 4麦の作付面積及び収穫量の推移（中国・四国）



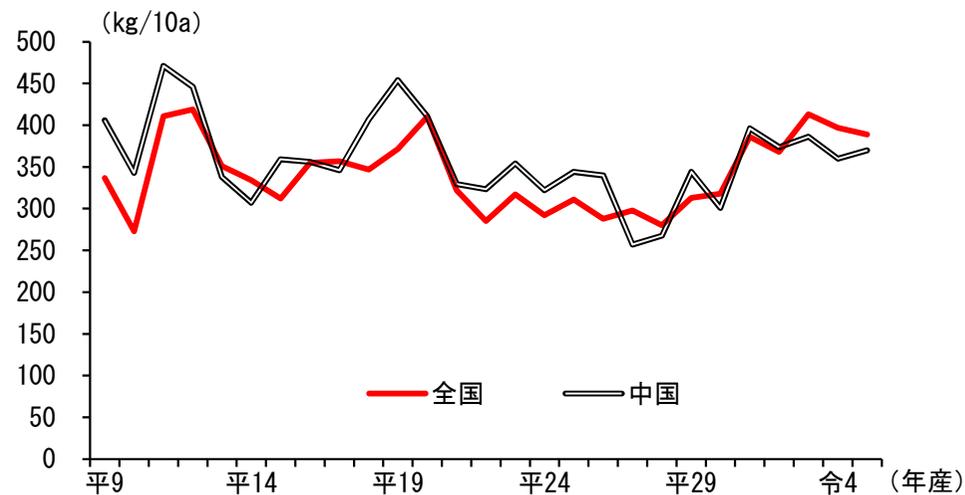
### 3 単収の推移

- 令和5年産の中国・四国地域の小麦、二条大麦、六条大麦の単収は、全国に比べ下回っている。
- 令和5年産のはだか麦の単収は、中国地域では全国に比べ下回っており、四国地域では全国と同程度。

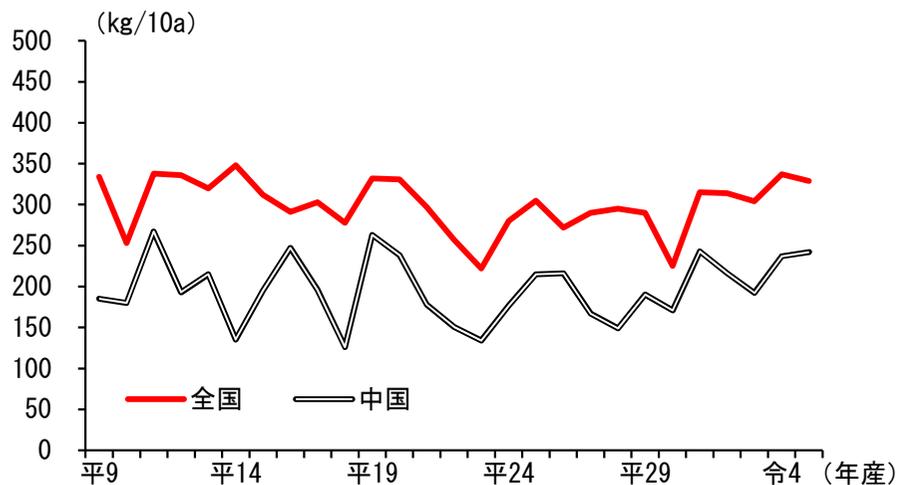
#### 小麦の単収の推移



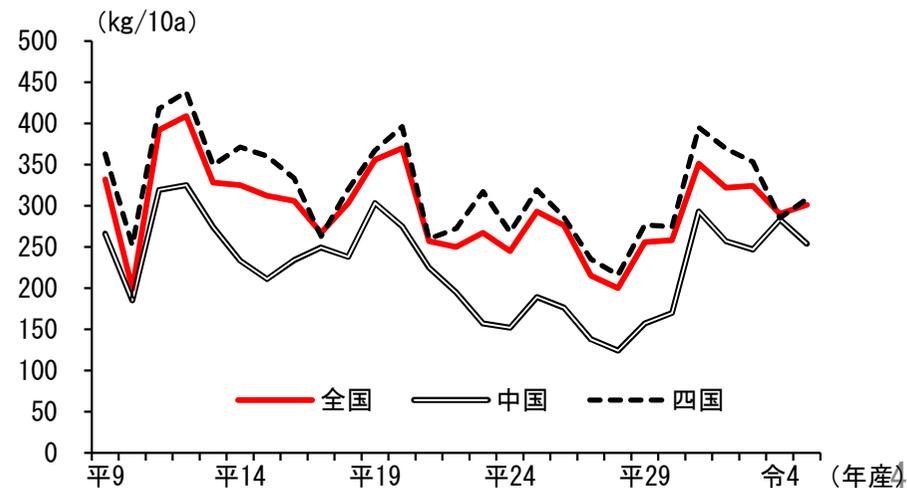
#### 二条大麦の単収の推移



#### 六条大麦の単収の推移



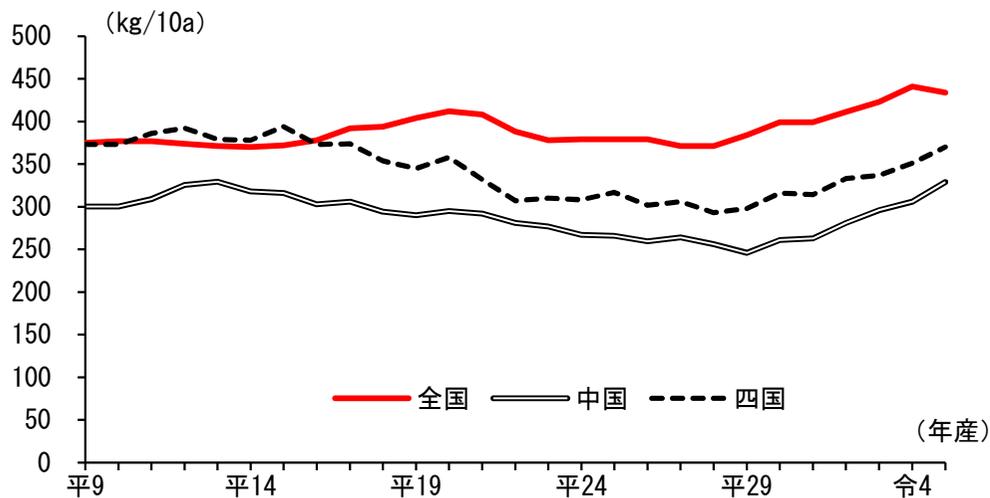
#### はだか麦の単収の推移



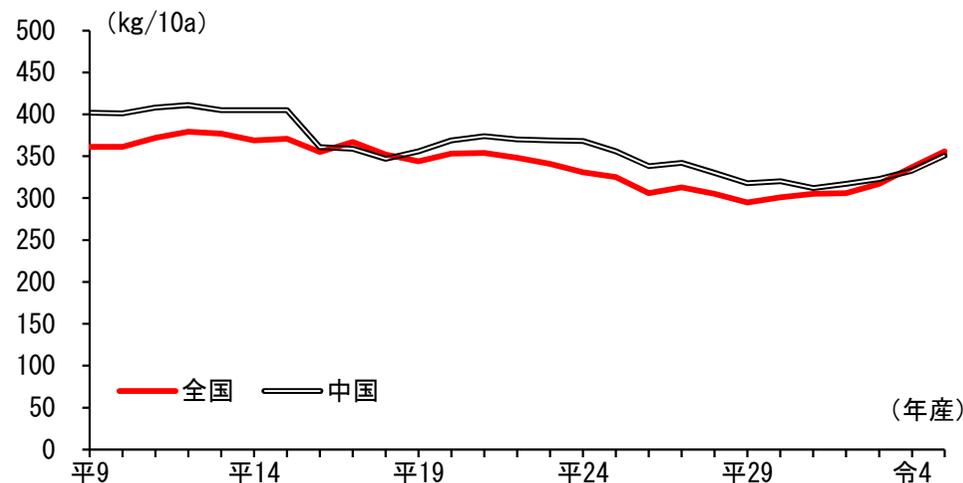
# 4 平均収量（平均単収※）の推移

- 小麦の平均収量は、近年、全国、中国・四国地域ともに増加傾向にある。
- 二条大麦、六条大麦、はだか麦は、平均単収が減少していたものの近年の豊作により持ち直している。

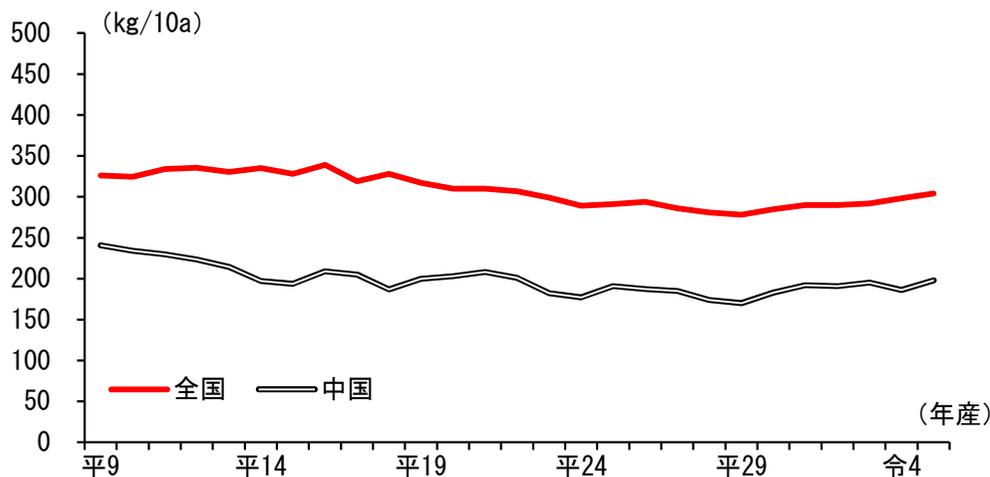
### 小麦の平均単収の推移



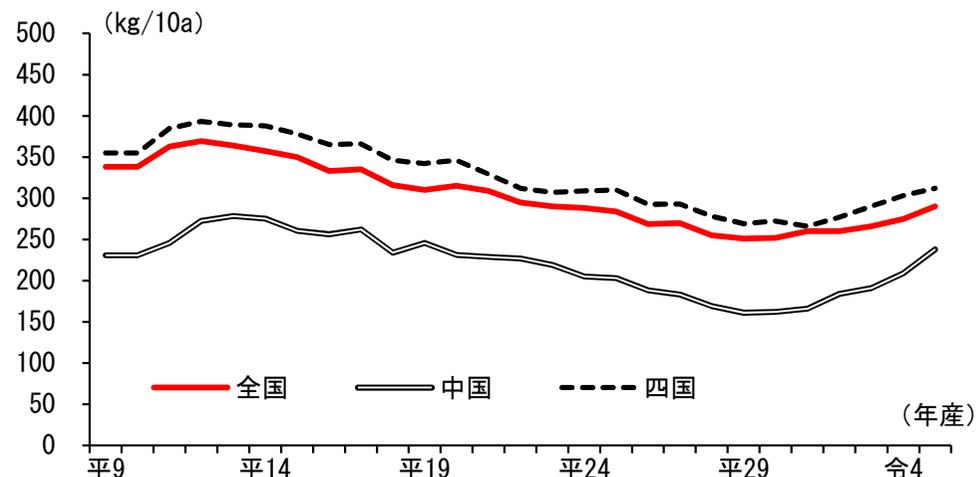
### 二条大麦の平均単収の推移



### 六条大麦の平均単収の推移



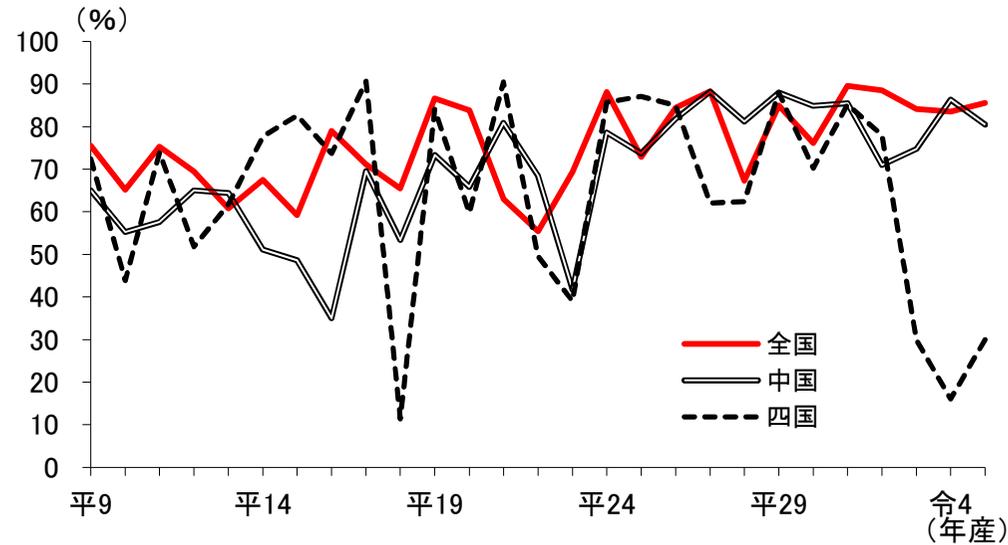
### はだか麦の平均単収の推移



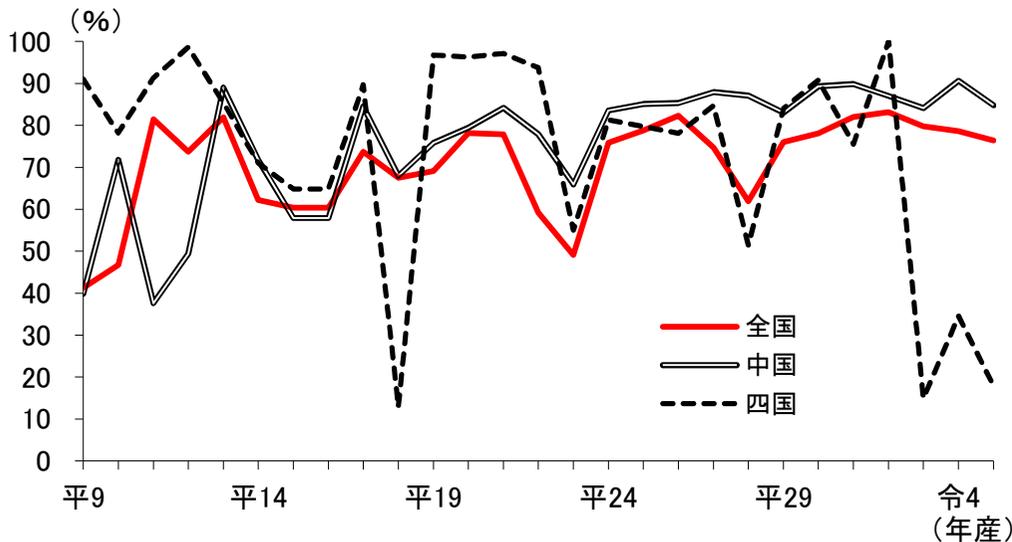
# 5 1等比率の推移

- 麦の生育は天候による影響を受けやすいため、毎年、1等比率の割合は大きく変動。
- 令和3年産の麦は、全体的に1等比率の割合が減少した。

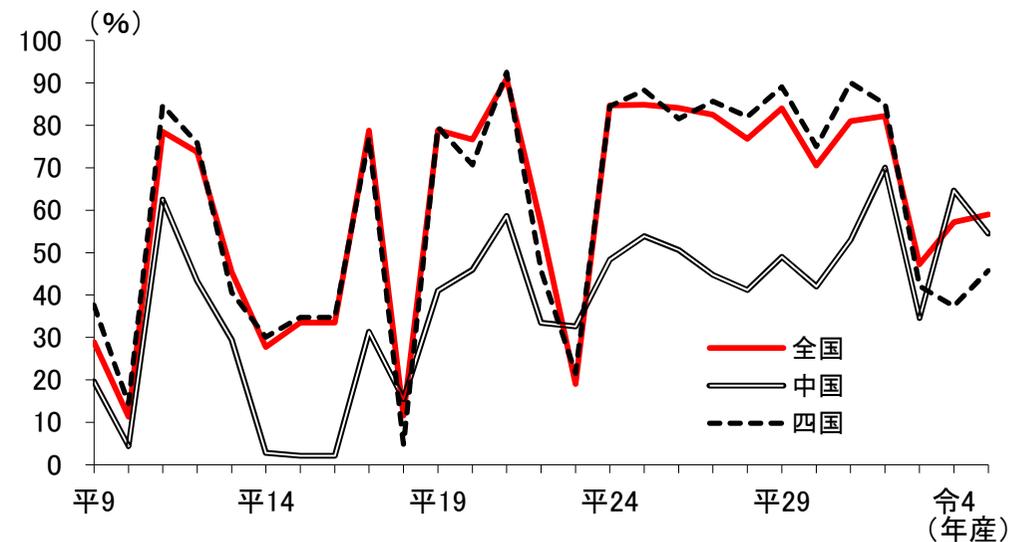
### 小麦の1等比率の推移



### 二条大麦の1等比率の推移



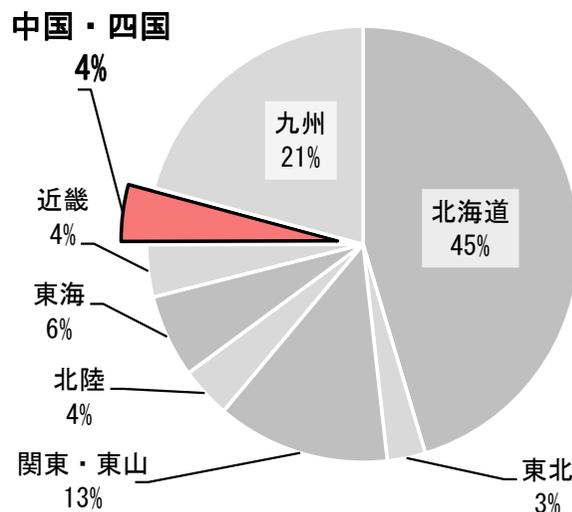
### はだか麦の1等比率の推移



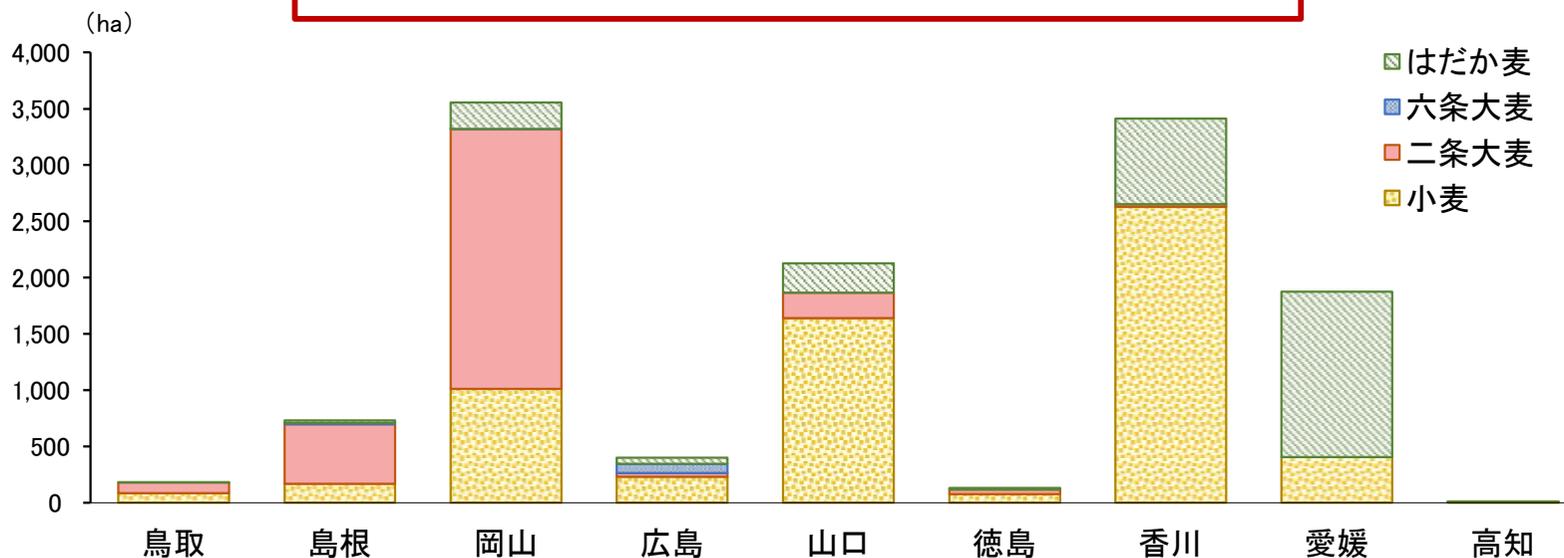
## 6 作付面積

- 全国に占める中国・四国地域の4麦の作付面積の割合は4%と少ないが、はだか麦は愛媛県と香川県が主産地。
- 中国・四国地域の地域別にみると、中国地域では二条大麦、四国地域では小麦とはだか麦が多く作付けされている。

### 4麦の作付面積の全国における割合（令和5年産）



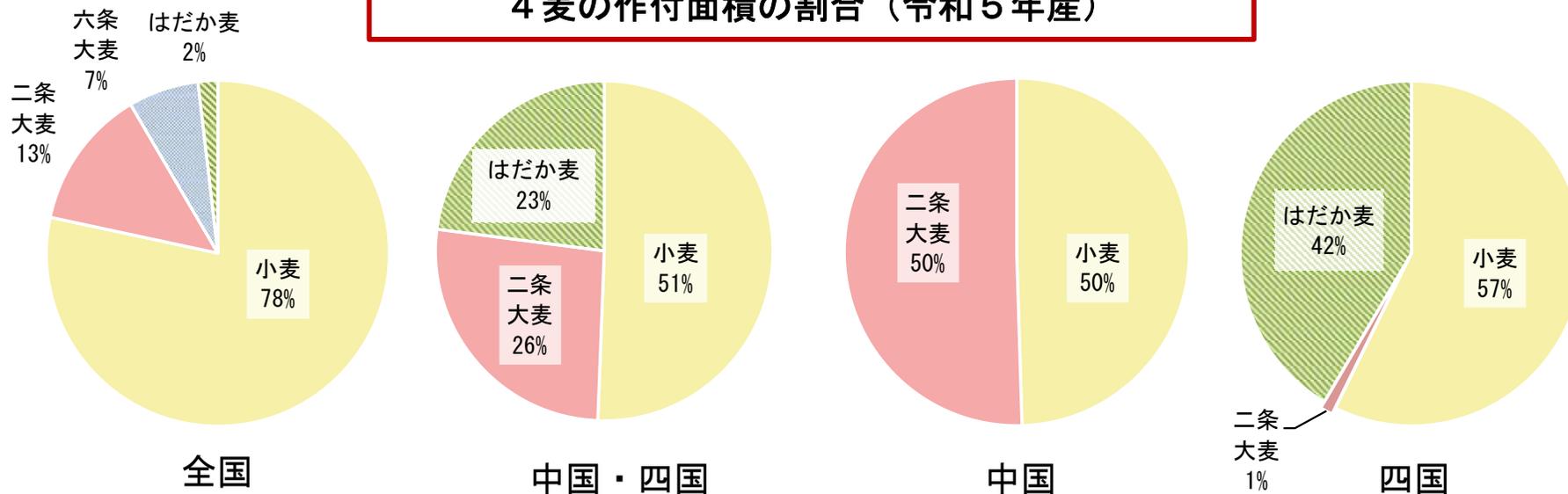
### 麦種別作付面積（令和5年産）（中国・四国）



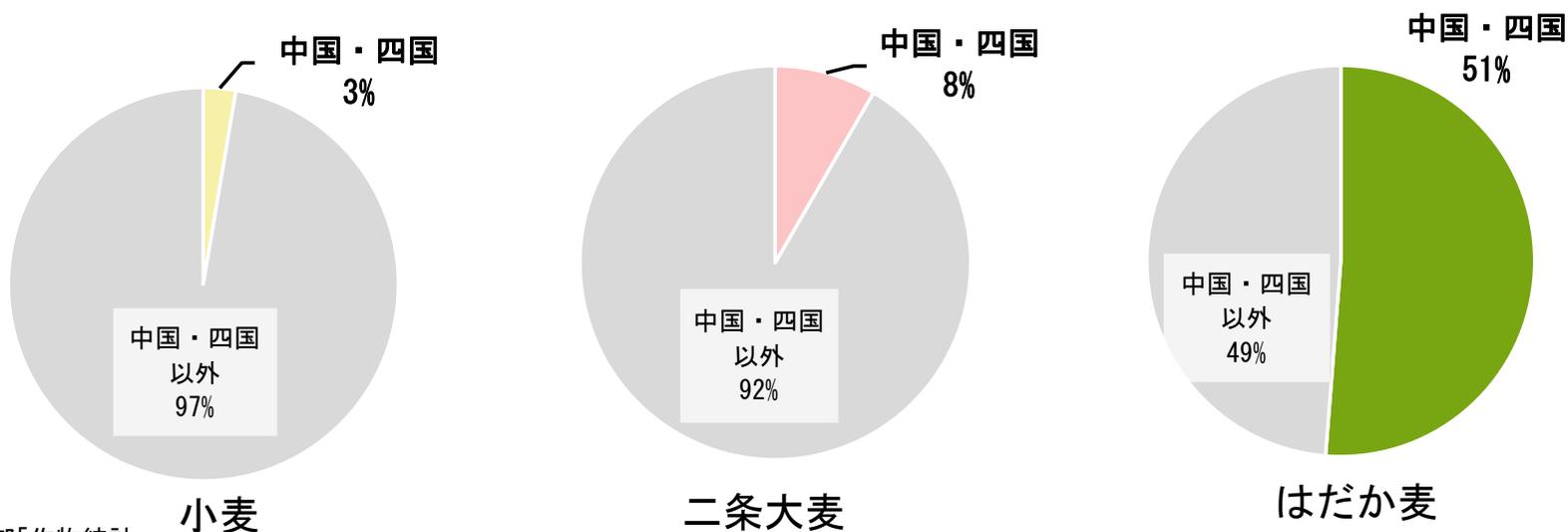
## 7 作付面積の割合

- 全国では4麦のうち、小麦の作付面積の割合が約78%を占めるが、中国・四国地域では小麦が51%、二条大麦が26%、はだか麦が23%であり、二条大麦とはだか麦の作付面積の割合が全国的に見て高い。
- はだか麦は、主産地が愛媛県と香川県であることから、中国・四国地域で全国の約51%を占めている。

### 4麦の作付面積の割合（令和5年産）



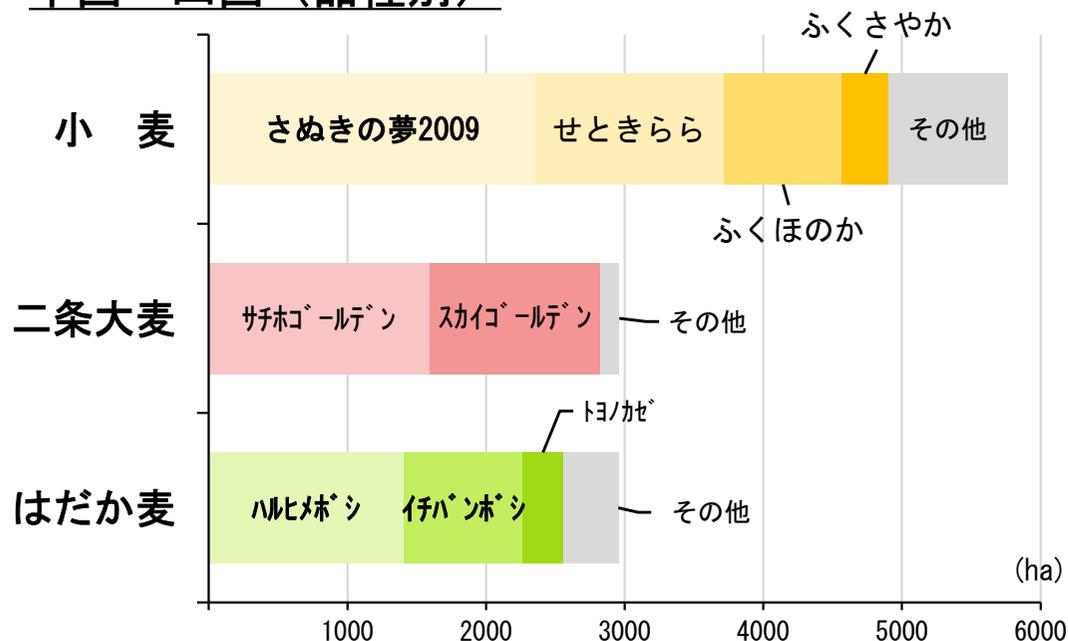
### 麦種別の作付面積の全国における中国・四国の割合（令和5年産）



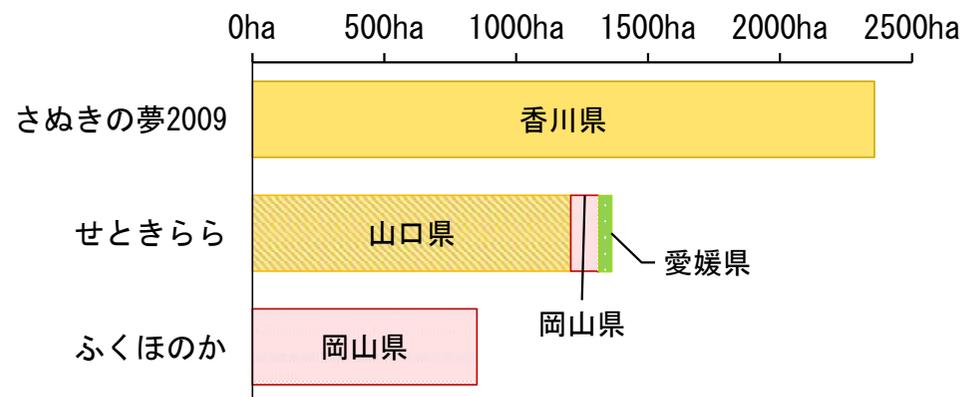
# 8 品種別作付面積（中国・四国）

- 小麦は、中国・四国地域では香川県の「さぬきの夢2009」が約4割を占めている。
- はだか麦は、管内では愛媛県の「ハルヒメボシ」と香川県の「イチバンボシ」で約7割を占めている。

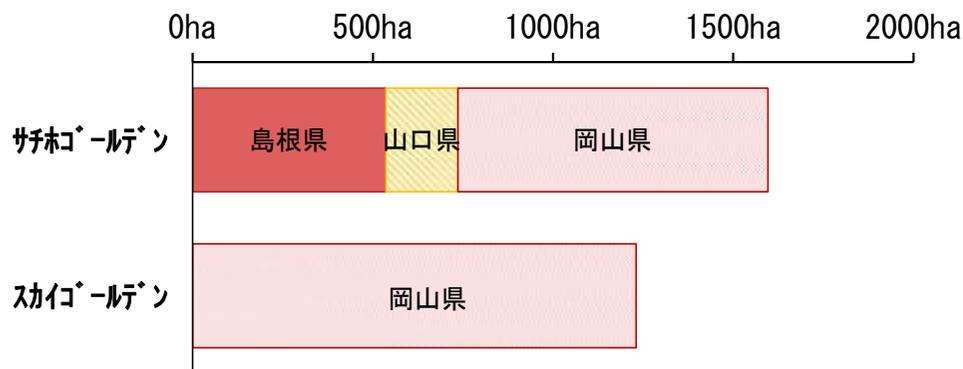
## 中国・四国（品種別）



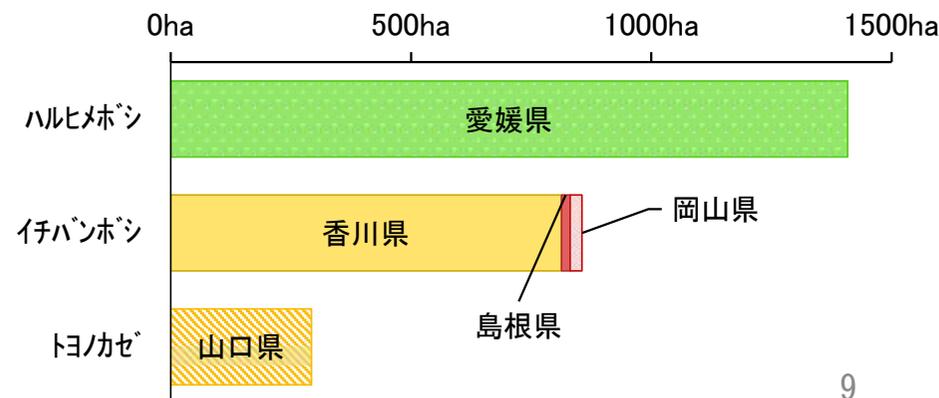
## 小麦（上位3品種）



## 二条大麦（上位2品種）



## はだか麦（上位3品種）



## 9 新たな品種

- 中国・四国地域では、香川県以外は麦類の品種育成は行っていないが、栽培や加工適性の高い品種に順次切り替えを進めている。

### 「さぬきの夢2009」〈小麦〉（香川県）

- 平成21年に香川県農業試験場が育成。
- 「さぬきの夢2000」のタンパク質含有量の低さと製麺適性を改良し、平成25年産から全面切り替え。
- 令和5年度に後継品種の品種登録の出願や奨励品種に採用予定。令和7年度以降での本格導入を目指す。



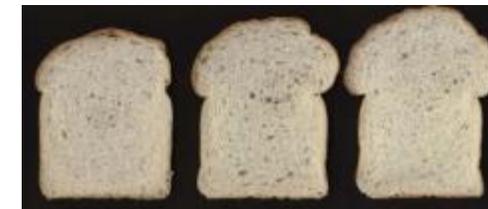
### 「ふくほのか」〈小麦〉（岡山県）

- 平成21年に近中四農研センターが育成。
- 製粉性が優れ、「シラサギコムギ」に比べ、収量が10~14%増。
- 平成26年産から全面切替え。
- 岡山県北部の津山市では、地元の農産物とふくほのかを使用した「津山ロール」を販売。



### 「せときらら」〈小麦〉（山口県、岡山県）

- 平成24年に近中四農研センターが育成。
- 製パン性に優れ、パン用小麦「ニシノカオリ」より4割近く収量が向上。
- 山口県では、「ニシノカオリ」から順次切替えし、平成27年産から全面切替え。



左から、ニシノカオリ、せときらら、1CW

### 「しゅんれい」〈二条大麦〉（鳥取県）

- 平成16年に福岡県農業試験場が育成。
- 「アサカゴールド」より凸腹粒が少なく、千粒重が大きい。
- 平成26年産から全面切替え。



### 「ハルヒメボシ」〈はだか麦〉（愛媛県）

- 平成24年に近中四農研センターが育成。
- 硝子率が「イチバンボシ」に比べて低く、また精麦の白度が高く、搗精（とうせい）過程で砕けてしまう粒の発生が少ないなど、精麦加工品質が優れている。



左から、ハルヒメボシ、マンネンボシ